

宇美町

エコトリコ

(2017年広報7月号)

地球温暖化は文字どおり地球全体の将来的な危機として、「世界中で取り組まなければならない問題である」との認識が世界中で高まっているなか、CO₂排出量世界第2位の国から、「パリ協定※から離脱する」との声明が出されました。政治的公約のようですが、温暖化対策よりも自国の産業擁護の方が大切だそうです。自分の子どもたちや孫たちの将来はどうでもいいのでしょうか？

人類は、イギリスで起こった産業革命以後約200年かけて地球全体の自然環境をかつてない程に急激に悪化させています。このままのペースであれば『50年後・100年後の地球上で生息可能な動物は激減してしまう』との共通認識のもとに加入国が増えているパリ協定なのですが、前述の離脱表明は、その根幹を揺るがしかねない重大な発言と言わざるを得ません。50年後・100年後には、「自分さえ良ければ他人のことなどどうでもいい」こんなことを平気な顔して公言するような厚顔無恥な大人がいなくなっているほしいと思います。

※パリ協定とは、2015年に採択された、2020年以降に各国が地球温暖化対策に関して取り組む事項を決めたもので、世界共通の目標としては世界の平均上昇気温を2℃未満にすること、今世紀後半に温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることを目標にした国際的なルールです。



文責 福岡県地球温暖化防止活動

推進員 竹吉 栄隆

